



Title	学習状況調査アンケートの動向：米国と韓国の現在
Author(s)	細川, 敏幸; 山田, 邦雅; 宮本, 淳
Citation	高等教育ジャーナル：高等教育と生涯学習, 26, 59-65
Issue Date	2019-04
DOI	10.14943/J.HighEdu.26.59
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73557
Type	bulletin (article)
File Information	HighEdu.26_59.pdf



[Instructions for use](#)

Trend of Questionnaire Survey about Learning Situation in U.S.A. and Korea

Toshiyuki Hosokawa,^{1)*} Kunimasa Yamada¹⁾ and Atsushi Miyamoto²⁾

1) Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

2) Office of Institutional Research, Hokkaido University

学習状況調査アンケートの動向 —米国と韓国の現在—

細川 敏幸^{1)**}, 山田 邦雅¹⁾, 宮本 淳²⁾

1) 北海道大学高等教育推進機構

2) 北海道大学総合 IR 室

Abstract — The questionnaire on learning situations used by the University IR Consortium was introduced by Yamada et al. in 2004 with reference to the Cooperative Institutional Research Program (CIRP) used in the USA. A questionnaire based on the National Survey of Student Engagement (NSSE) used in USA was also introduced in Korea in 2009. The questionnaires (CIRP and NSSE) referred to in both countries have been gradually reorganized after that, and there are several different parts. In this report, we focus on the CIRP compared with the other three questionnaires, and summarize recent trends in US questionnaire contents. This will assist in future discussions about the contents of student survey questionnaires.

(Accepted on 29 January, 2019)

はじめに

学生の自宅学習の時間の把握や、コンピテンシーに関する大学の教育力を測定するために、学習状況調査アンケートは極めて重要である (Kinzie 2005, 安藤他 2013, 細川他 2018)。現在、日本で利用されているアンケートの一つは山田らが 2004 年に、UCLA の Higher Education Research Institute (HERI)

が Cooperative Institutional Research Program (CIRP) として実施していたものから抽出し翻訳、日本に適合させたものである (山田 2012)。このアンケートは大学 IR コンソーシアムでも採用され、日本中で活用されている。

CIRP によるフレッシュマン調査は 1966 年に開始され、現在約 1900 の大学から 1500 万人の学生が参加している。米国では、この他にインディアナ州立

*) Correspondence: Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan
E-mail: thoso@high.hokudai.ac.jp

***) 連絡先：060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育推進機構

表 1. CIRP の概要

番号	内容	番号	内容
1	属性	28	経済的支援の種類
2	英語は母語か	29	保護者の収入
3	高校卒業年次	30	保護者の被扶養者数
4	フルタイムかパートタイムか	31	大学教育の資金についての懸念の有無
5	自宅からの距離	32	宗教
6	高校の成績	33	取得したい最高の学位
7	入試の成績	34	過去1年の経験
8	住居の種類	35	現在の能力
9	卒業高校とその所在地	36	保護者の受けた最高の教育
10	人種	37	一年間の経験
11	以前に本学で学んだことがあるか	38	研究能力
12	他の大学で学んだことがあるか	39	政治的立場
13	受験した大学の数	40	大学進学目的
14	第1志望校に合格したか	41	能力一般
15	本学は何番目の志望校か	42	グローバルな視野と倫理観
16	米国民権の有無と種類	43	大学進学の決定要因
17	修了した科目名?	44	高校生活における各種活動の時間
18	ブリッジプログラム参加の期間	45	軍役の有無
19	高校での履修科目の学習期間	46	卒業までの期待される必要年数
20	大学相当科目, バカコレア科目の習得科目数	47	性的指向
21	2名の保護者の性別	48	同上
22	里子の経験	49	障害
23	専門職大学への進学希望	50	研究者としての人生を歩みたいか
24	進学したい分野 Major	51	科学への意識
25	希望職種と保護者の職種	52	個人的重要事項
26	保護者の雇用状況	53	大学への期待
27	初年次の授業料と寮費の額, 支払元		

大学の NSSE (National Survey of Student Engagement) が 1999 年に開始され, 現在およそ 600 の大学から 32 万人の学生が参加している。韓国でも NSSE を翻案したアンケートを 2009 年から実施している (Lee 他 2017a)。一方で CIRP も NSSE も少しずつ改変が加えられ, 15 年前とは異なるアンケートになりつつある。本報告の目的は, 米国における 2 つのアンケート調査と韓国版 NSSE ならびに大学 IR コンソーシアムのアンケートを比較して, その違いを分析し, 将来のアンケート項目の再検討に役立てることである。なお 2 つの米国版調査の翻訳は細川が行った。韓国版 NSSE (以下韓国版) は日本語訳されたものを Heewon Lee 氏から入手した。

1. 概要

表 1 に CIRP, 表 2 に NSSE, 表 3 に大学 IR コンソーシアム (以下日本版), 表 4 に韓国版のアンケートの概要を示す。韓国版以外は執筆時 (2018 年 10 月) の最新版である。まず, これらの表からよくわかるのは, 日本版に比べて米国, 韓国版の設問が多いことである。CIRP で 53 項目, NSSE で 40 項目, 韓国版で 52 項目あるが, 日本版は 24 項目に抑えている。日本版の 11 番は CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) を含むので, 相応な量があるが, それを考慮しても日本版のアンケートは設問数が少ないことがわかる。

設問の多さの要因の一つは, 学生及び保護者の属性や特徴を詳しく問うことにある。CIRP は 35 項目 (全体の 66%, 以下同様), NSSE は 22 項目 (55%), 韓国版は 20 項目 (38%) が学生の属性や希望などをたずねている。日本版は 13 項目 (54%) である。設

表 2. NSSE の概要

番号	内容	番号	内容
1	一年間の授業経験	21	主専攻をいくつとるか
2	現在の学習能力	22	学年
3	教員との関係	23	フルタイムか
4	求められた学習能力	24	履修科目数ならびにオンラインの科目数
5	教員の評価	25	成績の最頻値
6	授業経験	26	本学が初めての大学か
7	一年間のレポートの出題回数	27	本学入学以前の高等教育の学歴
8	人間関係	28	希望する最高の学位
9	授業経験	29	両親（育てた人）の最高学位
10	授業で精一杯の努力が求められているか	30	性別
11	大学での行動計画	31	生年
12	地域支援が授業に含まれるか	32	留学生か
13	人間関係	33	人種
14	大学のサービス評価	34	学生クラブに入会しているか
15	現在の活動種類別活動時間	35	住居の種類
16	読書の時間	36	陸上競技部が支援するチームの選手か、その種類は？
17	教育効果	37	軍歴
18	学習経験の評価	38	障害
19	今考えても本学入学は適切な選択か	39	性的指向
20	来年も在学する予定か	40	以下の4問から一つ選択

表 3. 日本版 CIRP の概要

番号	内容	番号	内容
1	学籍番号	13	英語の検定試験の経験
2	学科	14	入学後にうまくいった経験
3	性別	15	充実度
4	年齢	16	教育、環境の満足度
5	片道の通学時間	17	設備や支援の満足度
6	居住形態	18	卒業後の進路
7	大学の授業での経験	19	将来の見通し
8	大学の授業、授業以外の学習での経験	20	浪人の経験
9	1週間あたりの活動時間	21	入学試験の種類
10	能力の変化	22	第1志望か
11	英語能力	23	高校での成績
12	渡航経験	24	高校での学習経験

問の比率は日本版も同じだが、絶対数で考えると、個人の特徴を捉えるために、多くの設問が用意されていることがわかる。

また、CIRPには10項目もの保護者2名に関する情報が含まれる。NSSEとその韓国版の設問には1つだけ（保護者の学歴）しか含まれない。日本版にはない。CIRPは学歴以外に、保護者の、性別、職種、雇用状況、年収、宗教についても質問している。また、米国のアンケートにはSTEM（Science Technology Engineering and Mathematics）教育を意識した設問が含まれるようになった。

2. 属性の調査

まず、米国版で特筆すべきは、軍隊経験の有無、宗教、人種（出身国）に関する設問である。日本版にも韓国版にもこれらをたずねる設問はない。CIRPの宗教の選択では17の宗教宗派を、人種（出身国）の選択では10以上を選択することができる。さらに驚くのは性的指向の調査である。詳細な選択肢があり（表5）、記名で記入を求めていることから、この情報によって必要な支援を実施していることが推測される。CIRPにも同様な問47があり、さらに

表 4. 韓国版 NSSE の概要

番号	内容	番号	内容
1	予習と授業準備	27	入学後の能力向上
2	授業中の発表, 質問, 話し合い	28	教育支援の満足度
3	授業態度	29	本学の長所
4	出欠と遅刻	30	本学を薦めたいか
5	グループ学習	31	学生としての意識
6	授業中思考力増進の活動	32	大学名
7	能動的学習の経験	33	年齢
8	課題やレポート作成	34	性別
9	受講科目数	35	国籍
10	受講英語科目数	36	親の学歴
11	英語授業の評価	37	高校の成績
12	試験と課題数	38	入学の方法
13	読み書きの分量	39	入学時の選考方法
14	平均自習時間	40	本学は何番目の希望だったか
15	グローバル学習経験	41	本学選択時に成績以外で考慮したこと
16	留学経験	42	学科選択時に考慮したこと
17	国内のグローバル体験	43	何年の何学期ですか
18	多様な学生との交流	44	系列 (学部) に相当) は
19	サークル活動	45	学科は
20	学習活動	46	履修型は (副専攻など)
21	教員との交流	47	前学期の成績 (GPA)
22	教員以外の人との交流	48	居住形態
23	アルバイトの時間	49	通学時間
24	アルバイトの学習への影響	50	授業料の支払い元
25	授業の満足度	51	前学期の奨学金の合計
26	教養授業の満足度	52	卒後進路計画

表 5. NSSE における性的指向の選択肢

ストレート (異性愛者)
バイセクシュアル
ゲイ
レズビアンキール
はっきりしない
別の性的指向 (以下に記述)
表明したくない

表 6. CIRP における障がいの選択肢

学習障がい (失読症など)
注意欠陥多動性障がい (ADHD)
自閉症スペクトラム障がい
身体障がい (発言, 視力, 移動性, 聴覚など)
慢性疾患 (がん, 糖尿病, 自己免疫疾患など)
心理的障がい (うつ病など)
その他

問 48 では『あなたは自身をトランスジェンダーとして認識していますか?』とたずねている。

また、障がいについても細かく分類された選択肢があり、米国の大学の支援能力の高さがうかがわれる (表 6)。大学生に可能性の高い学習障がいや心理的障がいのみならず、慢性疾患も加えられている。さらに CIRP は政治的立場についてもたずねており、選択肢は (極左翼, リベラル, 中立, 保守, 極右翼) である。

CIRP は学生の高校時代の学習内容についてもたずねている。通常の高校での修了科目以外にも、(大

学相当科目, 国際バカロレア科目, 大学確率統計学, 大学微積分学, 大学計算機科学 A), さらにブリッジプログラム (英語力が学部課程への正規入学の基準に満たない学生を対象に, 条件付きで学部課程へ入学できるプログラム) の参加期間について回答を求めている。高校や大学の多彩な教育内容に対応するものである。

表 7. CIRP で問われるコンピテンシー

学問的能力, 芸術的能力, 思いやり, 創造性, 達成力, 精神的健康, リーダーシップ力, 数学的能力, 肉体的健康, みんなの前で話す力, リスクをとる力, 知的な自信, 社会的自信, 精神性, 他人を理解する力, 書く力

表 8. NSSE で問われるコンピテンシー

- a. はっきりと効果的に書くこと
- b. はっきりと効果的に話すこと
- c. 批判的かつ分析的に考えること
- d. 数値と統計情報の分析
- e. 仕事に関する知識とスキルを身につける
- f. 効果的に他者と協力すること
- g. 価値と倫理に関する個人的な道德感を獲得する, または明確にすること
- h. 自分と異なる背景の人々(経済, 人種/民族, 政治, 宗教, 国籍など)を理解すること
- i. 複雑な現実の問題を解決すること
- j. 博識で積極的な市民であること

表 9. 日本版のコンピテンシー

- A. 一般的な教養
- B. 分析力や問題解決能力
- C. 専門分野や学科の知識
- D. 批判的に考える能力
- E. 異文化の人々に関する知識
- F. リーダーシップの能力
- G. 人間関係を構築する能力
- H. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- I. 異文化の人々と協力する能力
- J. 地域社会が直面する問題を理解する能力
- K. 国民が直面する問題を理解する能力
- L. 文章表現の能力
- M. 外国語の運用能力
- N. コミュニケーションの能力
- O. プレゼンテーションの能力
- P. 数理的な能力
- Q. コンピュータの操作能力
- R. 時間を効果的に利用する能力
- S. グローバルな問題の理解
- T. 卒業後に就職するための準備の程度

3. コンピテンシーの調査

学習状況調査で最も有用な部分は, 学生の成績評価に出てこない能力の評価である。その多くはコンピテンシーと総称され, 各国で調査が進められている。CIRP では, 次のように率直に質問している。『問 41. あなたの年齢の平均的な人と比較して, 次のあなたのそれぞれの特性を評価してください。私たちは, あなた自身の評価をなるべく正確に見積もりたいと思います。(一つだけ選択)』選択肢は『良い方の 10%, 平均以上, 平均, 平均以下, 低い方の 10%』の 5 項目である。表 7 の 16 の能力についてたずねている。

一方 NSSE は大学の教育力を問う設問として『問 17. 本学でのあなたの経験は, 次の分野の知識, スキル, および個人的な能力の獲得にどれだけ貢献しましたか?』があり, 『非常に強く, 強く, 少し, 非常に少ない』の 4 項目から選択する。NSSE の設問は CIRP よりも具体的に記述されている(表 8)。

日本版は表 9 のように 20 項目をあげて『問 10. 入学した時点と比べて, あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。』と質問し, 『大きく増えた, 増えた, 変化なし, 減った, 大きく減った』の 5 項目から一つを選択する形式である。韓国版も同様な設問だが, 項目数は 25 ある。日本版にないものは, 情報処理能力やストレス管理能力などである。

CIRP 表 7 に「思いやり」が, NSSE の表 8 の g に

表 10. 世界観や倫理観を問う設問 (CIRP)

- ・舞台芸術の一つ(演技, ダンスなど)で成就すること
- ・私の分野で権威になること
- ・私の専門分野への貢献について, 同僚から認知を得ること
- ・政治的構造に影響を与えること
- ・社会的価値に影響を及ぼすこと
- ・家族をつくること
- ・財政的に非常に良いこと
- ・困っている人を助けること
- ・科学への理論的貢献をすること
- ・オリジナル作品(詩, 小説など)を書くこと
- ・芸術作品を(絵画, 彫刻など)制作すること
- ・自分のビジネスで成功すること
- ・環境を浄化するプログラムに参加すること
- ・意味のある人生の哲学を発展させること
- ・地域活動のプログラムに参加すること
- ・人種理解促進を支援すること
- ・政治について最新情報を持つこと
- ・地域のリーダーになること
- ・他の国や文化に対する理解を深めること
- ・高い精神性を私の人生に組み込むこと

「倫理感」が含まれることが注目される。CIRP では, 倫理感を問うために 2 つの具体的な設問が用意されている。問 42 では『強く反対する, 反対する, いくぶん同意する, 強く同意する』から一つ選ぶように指示され, 表 10 のような項目が示されている。

問 52 では『以下のそれぞれについて, 個人的な重要性を選んでください。』として, 『必須である, とても重要, 多少は重要, それほど重要ではない』から一つを選ぶ。ここでは人生の方針や倫理感が問われている。CIRP で 2 つの設問を使って, 学生の倫理感や人生観を調べていることは重要である。現在, 世界的に職業人の犯罪が注目されている。医師, 看

表 11. 人生観や倫理観を問う設問 (CIRP)

- ・裕福な人は今よりも多くの税金を支払うべきである。
- ・地球規模の気候変動に対処することは連邦政府の優先事項であるべきである。
- ・連邦政府はより厳しい銃規制法を持つべきである。
- ・大学入試でのマイノリティー優遇措置は廃止されるべきである。
- ・連邦政府は赤字を減らすために税金を引き上げるべきである。
- ・明白で肯定的な同意 (すなわち、「はい」と答えた場合) が無い場合に発生する性行為は、性的暴行とみなされる。
- ・数学でより良くなるためにできることはほとんどない。—数学では“良い”か“悪い”のどちらかである。
- ・知性は、勉強や仕事をしていくことで改善できるものである。

護師、介護士の患者への犯罪、企業での背任、詐欺、横領、食品産業での毒物等の混入など、この10年で考えても事件の枚挙に暇がない。すべての教育機関は、このことに配慮したカリキュラムを導入して対応する必要がある。CIRPでの調査は、そのような大学の教育力を検証する一助となる。韓国版と日本版には倫理観に関係する項目がない。日本でも、このような設問の導入が望まれる。

4. 学習経験と満足度の調査

大学が提供しているカリキュラムや学習環境、学習方法を、学習経験を問うことで汲み上げることができる。日本版では2つの設問で26項目にわたらずねている。NSSEは2設問16項目にわたる。CIRPでは1設問11項目であるが、もう一つの設問で、生活状況も含めてたずねている(表12)。

一方で、米国版は設備や教育制度に関する満足度の直接的な設問は含まれてない。韓国版は3項目、日本版は2項目で満足度に関する直接の設問がある。ただし、NSSEでは『あなたの大学は次の点をどの程度重視していますか?』とたずねる設問で、大学のサービスの評価を行っている。

5. STEM 関連の調査と帰属意識

新たに米国の調査に組み込まれているのが、科学教育を念頭に置いた設問である。このような設問は日本版にも韓国版にもない。CIRPでは問50で『あ

表 12. CIRP における生活経験や学習経験の調査項目

- ・宗教上のサービスを受けた
- ・科目の勉強が退屈だった
- ・ボイコット、反抗、集会などのデモをした
- ・他の学生に教えた
- ・他の学生と一緒に勉強をした
- ・ビールを飲んだ
- ・ワインか他の酒を飲んだ
- ・やるべきことが重荷だった
- ・落ち込んでいた
- ・ボランティアをした
- ・クラス外で教師に助言を求めた
- ・学生の選挙で投票した
- ・別の人種/民族グループの人と交流があった
- ・授業に遅刻したことがある
- ・宗教について議論したことがある
- ・政治について議論したことがある
- ・授業を欠席したことがある
- ・公然と私の意見を伝えたことがある (ブログ、メールなど)
- ・キャンペーンなどに寄付をしたことがある
- ・授業中に居眠りをしたことがある
- ・宿題を期限までにできなかったことがある
- ・不安を感じた

なたは科学関連の研究キャリアを歩みますか?』とたずねて『強くはい、おそらくはい、わからない、おそらくいいえ、間違いなくいいえ』から1つ選ぶ。

次の問51では『あなたは次の陳述に同意しますか?』の設問に対して『強く同意する、同意する、中立、同意しない、強く同意しない』から一つ選ぶ。表13にその文を示す。

表13の設問では科学界への帰属意識をたずねているが、韓国版では大学への帰属意識をたずねている。日本版にも大学への帰属意識の設問はないが、北海道大学が代表校で実施した大学間連携事業(北海道大学高等教育推進機構2017)で試験的に行った卒業生調査には含まれる。

さらに問38では数理解析の能力を確認している。『あなたは次のことに自信がありますか?』に対して『完全に、おおいに、まあまあ、少しは、まったくくない』の中から一つ選ぶ。能力のリストは表14のとおりである。

表 13. CIRP における STEM 関連の設問

- ・私は科学者コミュニティに属しているという強い意識を持っています。
- ・私は重要な研究をしているチームで働くことで大きな個人的満足を得ます。
- ・私は自分自身を科学者として考えます。
- ・私は科学の分野に属しているように感じます。

表 14. CIRP における STEM 関連の設問

- ・科学的な技術を使用できる（ツール、計測器、技術の使用）。
- ・研究に関する疑問を作れる。
- ・適切なデータを収集する方法を決定できる。
- ・研究の結果を説明できる。
- ・研究の指標を得るために科学文献を使うことができる。
- ・複数の研究の結果を統合することができる。
- ・関連する質問をすることができる。
- ・課題について何がわかっていて何がわかっていないかを判別できる。
- ・科学的な概念を理解することができる。
- ・科学と数学の異なる分野間のつながりがわかる。

表 15. NSSE における総合評価の設問

- a. あなたの学習経験の内容を分かち合いたいというコメントやフィードバックがあれば、それを入力してください。
- b. 今の大学でのあなたの経験について、最も満足していること、そして最も失望しているのは何ですか？
- c. これまでで、この大学で最も重要な学習経験を記述してください。
- d. この大学での学習経験を向上させるためには、どのような変化が最も望ましいと思いますか。

6. 総合評価

NSSE では最後に、大学の総合評価を得るために表 15 のような設問を用意している。利用大学では、このうちの一つを選んで、学生に提示する。ただし、この設問に対する回答は非公開が原則である。

おわりに

われわれがモデルとしている米国の学習状況調査は、毎年更新されており、日本版や韓国版の調査項目は、その更新に追いついていない状態である。米国の社会環境の変化は大きく、性的指向や障がいの有無をたずねて学生サービスの基礎情報とする段階に達している。また、設問数を増やして、具体的な行動を確認することで学生の学習状況や大学の教育力を測ろうとしている。驚いたことに宗教的な立場や政治的な立場まで情報として収集している。さらには、STEM 関連の設問を用意して、科学技術関連の分野に進学する学生の能力や特性を押しえようとしている。日本の学習状況調査は、大学 IR コンソーシアムの発足により、ベンチマークテストとしての価値が確立されたが、社会の変化に合わせて設問項目の吟味が必要になってきている。本報告が、その一助になれば幸いである。

参考文献

- 安藤厚・細川敏幸・大沼明・山畑倫志・宮本淳・徳井美智代・山田邦雅・竹山幸作 (2013), 「連携 5 大学「一年生・上級生調査 2011 年」の北海道大学を中心とした比較分析—教学評価 IR ネットワーク推進のために—」, 『高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習—』20 特別号, 1-104
CIRP ホームページ, <http://www.heri.ucla.edu/>, (2018. 10. 12 アクセス)
- CIRP アンケート, http://nsse.indiana.edu/pdf/survey_instruments/2018/NSSE_2018_US.pdf (2018. 10. 12 アクセス)
- 大学 IR コンソーシアムホームページ, <http://www.irnw.jp/>, (2018. 10. 12 アクセス)
- Heewon Lee, Atsushi Miyamoto and Jeung Yun Choi (2017a), “A Comparative Analysis of the Teaching and Learning Processes of Undergraduate Students in Korea and Japan – Based on the Cases of Seoul National University and Hokkaido University,” 『高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習—』24, 77-95
- Heewon Lee (2017b), 韓国版 NSSE 日本語訳 2016 年版 (私信)
- 細川敏幸・山田邦雅・宮本淳 (2018), 「アセスメント・ポリシーの考え方—アセスメント・ポリシー研究会報告—」, 『高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習—』25, 69-73
- 北海道大学高等教育推進機構 (2017), 「IR ネットワーク報告書 2016」
- Kinzie, Jillian L. (2005), 「米国の学生調査と IR の役割」同志社大学学習支援・教育開発センター 第 2 回講演会
- NSSE ホームページ, <http://nsse.indiana.edu/>, (2018. 10. 12 アクセス)
- NSSE アンケート, http://nsse.indiana.edu/html/survey_instruments.cfm, (2018. 10. 12 アクセス)
- 山田礼子 (2012), 『学士課程教育の質保証へむけて』, 東信堂 (東京)

